銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—38—

三崎出張所　神　原　　勇

ハ　コ　フ　グ
分類　フグ目　ハコフグ科
学名　*Ostrasion tuberculatus*
英名　Boxfish, Trunkfish

フグ目の魚は他の硬骨魚に比較して腹ビレや尾ビレがなかったり，若しくは退化していることが多く，ハコフグ科のものは体表が固い甲でおおわれている。この甲はウロコの変化したもので，六角形の小片の組み合せから出来ている。この体甲の中で動かせるものは口・眼・各ヒレの付け根だけで，張子の虎の様な尾ビレを巧みにつかって方向転換を行う。各ヒレを緩やかに動かして泳ぐ様子はユーモラスでもあり，愛敬さも充分である。

ハコフグは暖海性で，本州中部以南に広く分布する。浅海の岩場の海底に普通に見られ，熱帯海域では種類も豊富である。他の魚が数尾以上で群をつくるのに対し，殆ど群をつくることなく単独行動をし動作が緩漫であるため流れにも逆わず，沿岸の磯波のあまり影響されにくい深みの底近くにいることが多い。

とがった口先には固い歯があって岩肌に付着した小動物を捕食する。他のフグの仲間と同様に口に含んだ海水を強く吹き出す特性があって，砂地の中にいるゴカイなどに水を吹きつけて掘り起し食べることもある。ハコフグをせまい水槽で飼育するとき，苦しくなると水面上に10㎝以上も水を吹き出すことがある。

ハコフグは古くから食用にされ肉・内臓・血液等に毒性のないことは明らかにされているが，ハコフグを他の魚と一緒にせまい水槽で飼育すると，他の魚が苦しみ喘ぎながら遂に弊死することがある。これはハコフグには驚いたり興奮したりすると，体表面の分泌腺から分泌する毒性のある液に起因する。この毒性はパフトキシン（フグの英名の puffer にもとづく）と呼ばれ，フグの中毒のテトロドトキシンの毒性物質とは別箇のものである。

しかしこの毒液も沿岸で漁獲されるキハダ（yellow fin tuna）などの胃の中からハコフグが見つけ出されることがあるので，いかに毒性のあるものでも大型魚類の前には無力さを露呈する。

他のフグ類が粘着性の卵を岩礁に産みつけるが，ハコフグは浮遊性卵で日本南海で，5～8月頃までは熟性卵をもっているので，この時期が産卵期にあたる。産卵したときの大きさは2㎜前後の可成りの大きさで，25℃の水温で5日位で孵化する。孵化まじかになるとシリビレをのぞいた前方の部分が透明な箱につつまれたような外見になってきて成魚に近い形態で孵化することは，他の魚類ではあまり見られないことである。

ハコフグ科は体甲の横断面の形状により次の各属に分類される。

- *Acanth ostracion*属　体甲の横断面は三角形
  眼の前方に突出した棘がある。
  Acanth ostracion tricornis：　ハマフグの類
- *Tetrosomns*属　体甲の横断面は三角形
  眼の前方に棘がない。
  Tetrosomns concatenatus：　ハマフグ
- *Ostracion*属　体甲の横断面は四角形
  Ostracion tubercnlatns：　ハコフグ
- *Lactoria*属　体甲の横断面は五角形
  Lactoria cornutus：　コンゴウフグ
  Lactoria fornasini：　マダラハコフグ
  （シマウミスズメ）

35回のカツオの
英名　Skip-jack と訂正

ハ　コ　フ　グ

分　類：フグ目　ハコフグ科
学　名：*Ostasion tuberculatus*
英　名：Boxfish

本州中部以南の暖海の浅い岩場に普通に見られ殆ど群をつくらず単独行動をすることが多い。体表は固い甲でおおわれ、各々の鰭だけを張子の虎のようにゆっくりと動かして泳ぐ様子は愛敬さ充分である。毒性はなく食用とされる。ハコフグ科は体甲の横断面の形状により次の各属に分類される。

体甲横断面				
三角形	眼の前方に突出したツノ	あり・*Acanthostracion tricornis*	・ハマフグ類
〃	〃	〃	なし・*Tetrosomus concatenatus*	・ハマフグ
〃	四角形	〃	なし・*Ostrasion tuberculatus*	・ハコフグ
〃	五角形	〃	あり・*Lactoria cornutus*	・コンゴウフグ
〃	〃	〃	あり・*L. fornasini*	・マダラハコフグ（シマウミスズメ）

コンゴウフグ
モザンビーク　—1951

マダラハコフグ
モザンビーク　—1951

ハマフグ
モザンビーク　—1951

ハマフグ
ブルンジ　—1974

コンゴウフグ
仏領ポリネシア　—1962

ハコフグ
ペンリン（クック諸島）—1974

ハマフグ
ブルンジ　—1974

ハマフグ類
セント・ビンセント　—1975

ハコフグ
モルデイブ　—1967

ハコフグ
仏領ソマリー海岸　—1959